

## 一橋大学（前期）【世界史】解答例

### I

北ドイツのリューベックは木材や毛織物などの日用品を取引する北海・バルト海貿易圏における交通の要衝となった。南ドイツではアウクスブルクがこの貿易圏と地中海貿易圏を繋ぐ交易を行った。こうした遠隔地交易の存在は都市経済を周辺の地方と共に独立的に完遂するものと捉えたビュッヒャーの見解とは相容れず、都市経済の「開放的な面」を示している。一方、都市経済の「封鎖的な面」としてはギルドによる規制があり、商業や手工業の安定が図られた。これは各都市内部で見られ、ビュッヒャーも「その地特有の規範」として取り上げている。「開放的な面」にあたる遠隔地交易においても、北ドイツ都市の商人達はハンザ同盟を通じて一都市の範囲を超えて規制を設け、安定を図った。「開放的な面」と「封鎖的な面」双方の恩恵から経済力を高めたこれらの都市は自治を確立し、逃亡農奴やユダヤ人を受け入れて拡大しつつ、住人は都市民としての意識を形成した。

### II

欧米各国では 19 世紀始めに奴隷貿易が廃止されはじめ、19 世紀末までに奴隷解放がなされたが、これらは黒人の境遇の改善に必ずしも寄与せず、悪化させる場合もあった。フランスはハイチの黒人奴隷による独立運動を弾圧し、独立を認めた後も奴隷主への補償を要求したため、ハイチは西半球の最貧国となった。イギリスは人道主義の高まりや奴隷制プランテーションを抱える 13 植民地の喪失などによる経済上の不利から奴隷貿易禁止に踏みきり、禁止を国際的に押しつけ、アフリカ分割においては現地の奴隷貿易をしばしば植民地化の口実とした。アメリカの解放奴隷が送り込まれて建てたりベリアでは現地住民との衝突や内紛で不安定な政治状況が続いた。アメリカでは南北戦争で北部が列強の介入を防止するため奴隷解放を掲げ、実現したが、奴隷への補償はなかった。黒人は人種隔離を受け、獲得した政治的権利も剥奪され、シェアクロッパー制の下で小作人として搾取された。



唐滅亡後、五代十国時代となり中国が分裂するなか、東アジア各地で政権が交替した。朝鮮半島で新羅に代わり高麗が、雲南で南詔に代わり大理が成立した。中国西北でタングート人の西夏が成立し、ベトナム北部は李朝として独立した。渤海を滅ぼした契丹は後晋の建国を助けて燕雲十六州を領有するなど東アジアの情勢を大きく左右した。中国を統一した宋も契丹による圧迫のもとに置かれ歳幣を贈った。12世紀には女真人の金が契丹を滅ぼすと華北一帯に支配を広げ、宋を圧迫して歳貢を得た。高麗や日本では軍人が政権を獲得した。唐末から五代の戦乱により中国国内では貴族が荘園を失って没落し、小作制の土地経営で形勢戸が台頭した。宋は文治主義のもと、形勢戸中心の士大夫層から科挙で選抜した官僚を用い、皇帝独裁体制をとった。また、唐末以降、商業規制が緩んで草市や鎮が発達し、貨幣経済も発展した。金により南に追いやられると江南の開発が進んだ。